付表 15

「戦没者を追悼し，平和を祈念する日」に反対する日本バプテスト連盟の宣言

私たち日本バプテスト連盟は，政府が閣議決定として制定した「戦没者を追悼し，平和を祈念する日」を認めることが出来ない。

これを制定すること自体，１９８０年「英霊にこたえる会」の運動方針，1981年自民党の政府申入れ等の経緯からみて，靖国神社国家護持につながるものであることは，明らかである。

「戦没者追悼の日に関する懇談会」の総理府長官への答申によれば，「先の大戦は日本民族にとって銘記すべき未曽有の体験だった」とあるが，先の大戦がアジアへの侵略であったという視点を欠落させており，アジアの犠牲者を意識的に無視している。また戦没者を「日本の同胞」というとき，それは軍人・軍属と一般市民との関係を不明確にしたままである。自衛官合祀拒否訴訟の山口地裁・広島高裁判決が明示しているように，「死者に対する追悼・記念」は，あくまでも個人に関わる問題であり，政治が介入すべき問題ではない。また国家が統一的に，断じて規定すべきものではない。

戦争犠牲者をしのび，平和への誓いを新たにすることは，国民一人ひとりが，それぞれの仕方でなすべきであり，再び新たな戦争犠牲者を生み出すようないかなる行為も決して許してはならない。

私たちは，生死を支配したもう主イエス・キリストに固く立って「平和を造り出すもの」としての取り組みを更に続けてゆくものであることをここに宣言する。

１９８２年８月２０日

日本バプテスト連盟

第３６回年次総会